

額田林業クラブ

調査団体名	額田林業クラブ	団体代表者名	山本恵一会長
設立年	1976(昭和51)年	対応してくれた人の名前	山本恵一
団体URL			
活動拠点	愛知県岡崎市額田	調査員	唐澤晋平、今村 豊
取材日	2013年11月27日	レポート作成者	今村 豊
会員数	男49人、女12人		

活動内容

①優良材生産と地元建築物への活用 ②都市との交流 ③小中学生への森林環境教育の推進 ④女性部による「つまもの」の生産と出荷(紹介は次の機会)

キャッチフレーズ

額田の森林と共に、これまでも、これからも

会のモットー(何を大切にしているか)

自分達が情熱をかけて育てた優良材を、自ら伐って搬出して地元で活用すること
～岡崎女子短期大学付属第二早蕨(さわらび)幼稚園の事例～

・地元材スギ、末口直径30cm、8m～9m材、130本の調達

山本会長には、地域の森林資源育成や優良材づくりなどの森づくりに対する熱い情熱と、皆を引っ張っていく力強いリーダーシップがあります。その姿勢は、設立当初から現在に至るまで一貫して変わりません。優良材生産に情熱をかけたひとつの成果として、平成25年に岡崎市内に建てられた「岡崎女子短期大学付属第二早蕨(さわらび)幼稚園」(平成25年11月竣工)の園舎への建築材の提供が挙げられます。この園舎建築のために使用する「地元材スギ、末口直径30cm、8m材、130本」を地元の木によって調達したいという園長さんの要望に応え、山本さんが会員に声をかけ、額田林業クラブでは会員の山から3ヶ月以内の短い納期内に、自分達の手によって伐採・搬出してこれらの材を集めました。しかも、伐採時には地元の子供たちに見学してもらって、しっかりと林業を伝えています。「末口直径30cmの8m材を130本」というオーダーは、間伐を計画的に行い、搬出用の作業道が開設されている等、森づくりに真剣に取り組まれている組織でないと絶対に調達不可能な内容です。山本さんは仲間9名でこの困難な作業をやり抜きました。搬出された素材も、山本さん達の苦労に配慮した岡崎森林組合が発注者と度重なる交渉を行って、市場価格より高額で納品することができました。

・顔の見える地域林業、日本の林業の理想形

地元の子供たちのために、クラブ会員の手によって苦勞して育ててきた森林を、クラブ員が一体となって、きちんと自らの手によって伐採し活用された今回の取り組みは、正に地域林業のあるべき理想の形と言えます。こうした取り組みの先頭に立って、森づくりから木づかいまでをリードしてきた山本さんを筆頭とする「額田林業クラブ」の活躍は、日本林業の誇りであり、自伐林家と顔の見える地域林業の理想形として、これからの地域林業、日本の林業を考える上で学ぶべき多くのヒントを与えてくれます。

設立から現在に至るまで変化したこと

・優良材生産の取り組み

1976年(昭和51年)にクラブが創立した当時、ヒノキ無節の柱材の優良材生産を目指していました。間伐、枝打ちを計画的に行い、昭和60年から柱材の製材、格付け、展示販売を行いました。当時、3m、3.5寸角の柱材で1本あたり15,000円から40,000円(120万円/m³)もしたそうです。ところが、平成25年になると3m、4寸角の柱材で1本あたり3,000円から13,000円(35万円/m³)となって、当時の約3割の金額になってしまったとのこと。それでも、しっかりと枝打ちをされたヒノキ優良材には違いなく、通常のスギ製品価格となる7～10万円/m³と比較すると非常に大きな優位性があります。こうした製品の高値取引も、優良材を作ろうと計画的に実践されてきたクラブの大きな成果と言えます。現在も毎年開催される、「岡崎市農林業祭」、「ぬかたふるさとまつり」において約80～100本の展示販売を行っており、地元自伐林家の熱い意気込みが伝わってきます。

枝打ち・間伐の指導や森林環境教育等の取り組み

最近、都市との交流や地元小中学生に対する枝打ち・間伐の指導や森林環境教育が非常に盛んになってきました。例えば、枝打ち・間伐指導を行う「おと川リバーヘッド大作戦」は現在まで13年間継続されています。平成23年に千万町で開催された「全国ネイチャーゲーム研究大会」では全国から160名の方が集まり、間伐指導をされました。また、平成25年には「第9回矢作川森の健康診断」が開催され、すべての会員と岡崎市民を含む220名が参加されました。平成26年には「中部北陸ブロック林業グループコンクール」が開催され、第二早蕨幼稚園の現地見学、額田ヒノキによる首相官邸用テーブル・イスの寄贈事例を紹介したとのことです。

額田中学校に対しては間伐指導を18年間も継続されており、平成26年には生徒74名が間伐を行いました。その他にも幸田町中央小学校70名、豊富小学校40名の間伐指導を行っています。また、平成17年には額田中学校により、間伐材を使ってテーブル・ベンチを作成して公共施設へ寄贈された事例が、全国から5校の事例に選ばれて、「森で学ぶ活動プログラム集」に掲載されました。平成26年にも額田中学校では同様の取り組みが行われました。

連携している団体・専門家・自治体など

岡崎森林組合、愛知県林務課、岡崎市林務課・自然共生課自然体験班、水守森支援隊、岡崎炭焼の会、乙川水源の森づくり実行委員会、農業協同組合、漁業協同組合

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

・山の境界確認作業

山づくりに興味や関心のない若い方が多く、クラブへの加入もほとんどないのが現実ですが、こうした状況を少しでも打開しようと、クラブでは山の境が不明な個所について、境界の確認作業に立ち会うなど山づくりの支援作業を行っています。

・全会員の林業に対する継続した熱心な勉強姿勢・林業先進地調査

年会費は1万円を徴収し、その会費から会員全員が「現代林業」「林業新知識」「林業あいち」を購入されて、会員同士で様々な林業に関する事柄を熱心に勉強されています。また、年一回は必ず先進地調査に出かけて林業技術の習得と会員同士の親睦を深めており、クラブ員は林業に対する意識レベルが高く、クラブ員同士の仲も大変良いのが特徴です。本当に理想的な正に全国の林業研究グループの鏡と言えます。

現在直面している課題

・若いクラブ員の加入を望む

クラブ員が高齢化しているので、特に若い方の加入を希望しています。若い方は一般的に山に関心がなく、自分の山がどこにあるのかわからない方も多いのが実態です。そこで、クラブとしては林業に関わるあらゆる指導をしっかりと行うので、ぜひ仲間に入ってほしい切望されています。

・地元額田地区の岡崎森林組合職員が欲しい

岡崎森林組合の職員に地元額田出身者がいないので、地域の実情に対する理解やクラブへの参加、クラブと一体となった取り組み、意見・要望等において速やかな対応が難しいとのことです。地元額田出身の岡崎森林組合職員がいると、もう少しクラブ活動がやりやすいと思います、とのことです。

・岡崎市による水源基金の創設を

額田町が岡崎市と合併したことで、以前、額田町にあった水道水1t=1円を財源とした水源森づくり基金がなくなってしまったので、岡崎市に復活していただきたい、との希望も語られました。岡崎市が水源基金を実施すると、年間4,000万円の基金が生まれる、とのことです。

・山地災害発生に対する危機

平成23年に台風12号が紀伊半島を直撃し、深層崩壊による土砂災害ダムが発生したことにショックを受けた、とのことです。額田の人工林の山も間伐が遅れており、いつ山地災害が発生しても不思議でない放置林が年々増加しているのが現状で、非常に心配しており、クラブからも市民に働きかけて速やかに間伐を行い、健全な森林づくりを推進しなくては、とのことです。

今後やってみたいこと

愛知県でも事例が増えてきている「木の駅プロジェクト」にクラブとして取り組むことが決定されました。人工林は利用できる林齢に達したら自ら伐って搬出・利用すること、それに加えて、今度はかつて切り捨てた未利用材も搬出し、木質バイオマスとして利用していくと力強く話されていました。山本さんの自分達の力でやる意気込みには感心します。

チームオリジナルの質問

<質問内容>今一番推進したいことは何ですか

<答え>岡崎市の50%の方が額田の山を水源とする水を飲んでおり、もっと街の方に森林の大切さを理解してほしい、と語っておられました。良い山とは、適正な林分密度で林内に陽光が差し込み、下層植生が繁茂しており、その結果、森林土壌が形成され水源かん養機能が発揮されている山です。山本さんは、間伐放置林が目につくことから、こうしたクラブ員が整備した良い山をもっと街の方に見学してもらい、森林整備の重要性やこうした森林整備に取り組んでいるクラブの活躍についても、理解してほしいと語っておられました。さすがに、森林整備を実践されている方だけに、自分達のつくりあげた山を良い事例として取り上げる、自信と自負が感じられました。

チームオリジナルの質問

<質問内容>「森の民」としての生き様とは

<答え>地域や現場を知っている「森の民」が将来を考えて立派な山をつくり、それを自ら伐採・搬出して、地元で活用していくことが、林業の真の実践者としての「格好いい」生き様だと思います。これからも益々地域リーダーとして、情熱・熱意を持って地域林業の振興に努め、1ha1億円的林業を目指して日本の林業に元気を与え、自分達の後に続く林業後継者を育て導きたい、話されていました。本当に、実に「格好いい」山本会長でした。

その他伝えたいこと

・全国林業グループコンテストにおける優秀な成績

過去に全国林業グループコンテストに参加しており優秀な成績を残されています。質の高い活動を継続されていること、こうした活動をきちんと報告して、コンクールに参加されていることに大変頭が下がります。

平成10年度 額田林業クラブ女性部 農林水産大臣賞を受賞

平成15年度 額田林業クラブ男性部 農林水産大臣賞を受賞

平成22年度 額田林業クラブ男性部 林野庁長官賞を受賞

中でも平成15年度の農林水産大臣賞の受賞は、テーマを「林業地域から発信する地域おこしの取り組み」とし、①1ha1億円林業 ②三河材「額田ヒノキ」のブランド化 ③森林・林業教育の推進 ④都市との交流の4項目について発表され、講評では「額田林業クラブの優良材生産活動から森林・林業教育、さらには都市との交流といった幅広い総合的な活動は、林業グループの活動として考えられるエッセンスを網羅しており、他の手本となる」と絶賛され、全国トップ的林業グループとして認識されています。なお、女性部の取り組みも大変活発ですが、紹介は次の機会とします。

写真



素材を提供した会員の山 手前左側が山本さん



岡崎女子短期大学付属第二早蕨(さわらび)幼稚園の外観



会員の山から調達したスギ丸太



木の温もりを喜ぶ園児の皆さん



地元材をふんだんに使った幼稚園の内部



幼稚園外部の廊下の丸太も特徴的



額田中学校の間伐指導1



額田中学校の間伐指導2



ヒノキ柱材 格付作業



1ha1億円林業を目指すヒノキの柱材展示